



## 厚生労働省依存症の理解を深めるための普及啓発事業

# 依存症の理解を深める特別授業 in 和歌山

12月8日(水) 11:00-

3名の講師先生をお迎えし、依存症の理解を深める特別授業を実施しました。

今田耕司さんによるビデオにより『依存症のイメージとしては、最近になって病気だという報道をよく目にするようになりました。今回サポーターを通じてどのような病気なのかを周りの人達にも広めていけるように学びたいと思います。決して自分や自分の身の回りの人達にとって関係ないものではない病気だと思っています。』とメッセージをいただきました。



厚生労働省は、依存症に関する偏見・差別を解消し、依存症者や家族に対する適切な治療・支援に繋がる行動変容を促すことを目的に、「依存症の理解を深めるための普及啓発事業」を実施します。このたび事業の一環として、「依存症啓発サポーター」に芸人・今田耕司さんを就任いただいたのでお知らせします。  
～厚生労働省 HP より～

アルコールや薬物、ギャンブルなどを“一度始めると自分の意思ではやめられない”、“毎回、やめようと思っているのに、気がつけばやり続けてしまう”それは「依存症」という「病気」かも知れません。依存症の発症は、ドーパミンという脳内にある快楽物質が重要な役割を担っています。アルコールや薬物、ギャンブルなどの物質や行動によって快楽が、得られます。そして、物質や行動が、繰り返されるうちに脳がその刺激に慣れてしまい、より強い刺激を求めるようになり、コントロールできなくなってしまう病気なのです。

依存症は「孤独の病気」と言われています。例えば、「学校や職場、家庭などとうまくなじめない」といった孤独感や「常にプレッシャーを感じて生きている」、「自分に自信が持てない」などの不安や焦りからアルコールや薬物、ギャンブルなどに頼るようになってしまい、そこから依存症が始まる場合もあります。

そこで、依存症について正しい知識と理解を持つこと。依存症は、誰でもなりうる病気であり、決して恥ずかしいものではなく、病気を隠さず、本人や家族だけで抱え込まず、専門の機関へ相談することで、早期の治療や支援につなげていくことの大切さを教わりました。

### 講師紹介

塚本 堅一氏：元 NHK アナウンサー。2016年薬物事件で逮捕され懲戒解雇。依存症の回復施設を経て社会復帰。

三森 みさ氏：イラストレーター、デザイナー、漫画家。自身のカフェイン依存を描いた漫画を SNS 上に発表し注目を集める。

上堂蘭順代氏：アルコール依存症当事者。父親の虐待があり、高校生の頃から現実から目を背けるためにアルコールを飲み、入退院を繰り返す。現在は回復し会社経営。精神保健福祉士、社会福祉士の資格を持つ。